

入学は昭和19年4月で、8月には軍需工場へ奉仕作業に出ました。1年生は東芝と三菱、櫻護謨の3か所に分けられ、私は櫻護謨へ行きまし。まだ暗いうちから防空頭巾を持って、市電とバスを乗り継いで行つたんですよ。工場では飛行機のパイプ管だと思つのですが、穴を開ける作業をしていました。慣れないものだから穴がずれて、たくさん不良品を作つてしまつて(笑)。工場へ行つている間に三河地震が起つたり、三菱の工場は爆弾の被害が大きくて、亡くなつた生徒さん多いと聞きました。

当時は父が中区の大須で衣料品店を営んでおり、家族は昭和区の前山町に住んでいましたが、空襲がひどくなり、江南の方へ縁故疎開しました。私は6人兄弟の上から2番目でしたが、父は大須で店を続け、兄は学徒動員で戦地に赴き、一番下はまだ乳飲み子でしたので、私が一家を支えていたようなところがありました。名古屋から満員電車で食料を背負って運んだりしましたが、小柄なので大変でした。大須の店は焼けましたが、前山町の家は焼けずにすんだので、

終戦後1〜2か月して戻りました。部活は淑徳に入ったからには伝統のスポーツ、テニスがしたかつたのです。希望者が多く、入学当初は陸上部に入らされていました。それが終戦後、好きな部活に入れることになり、迷わず庭球部を選びました。生徒で校庭の芋畑を潰してコートに戻

したり、道具がないので自転車のチューブを張つてボールを作つたり。運動靴もないので、試合でも裸足でした。とにかくテニスがしたくて、帰って朝一番に行つたり、夕方になって、帰れ」と言われても、隠れてまた練習したり、試験の時もお正月でも練習していました。その甲斐あって、愛知県

大会ではすぐにトップになることができました。国体にも2回出ています。福岡大会までは選手が食料を持参しなければならず、全校集会で皆さんに寄附していただいたお米を持って出かけたんです。ユラフォームも揃いではなく、ハラハラでした。好きな科目は体育と国語でした。当時の校長だった小林素三郎先生にテニスを見ていただいたせいとか、成績がよかつたんです(笑)。当時は秀優良可不可の五段階評価でしたが、体育と国語は秀をいただいています。私は高女の最後の卒業生ですが、前の年から高等学校が開校していたので、高女卒業後は高等学校の3年生に進みました。テニスがしたかつたのです。高女は1クラス40人ほどで3



愛知淑徳高等女学校第41回卒業生(昭和24年卒業)
愛知淑徳高等学校第2回卒業生(昭和25年卒業)
鈴木陽子さん(旧姓:前田)

昭和7年生まれ。現在72歳。
庭球部に所属し、在学中、国体に2度出場。
卒業後も五大都市大会などで活躍。
結婚後はバレーボールにも打ち込む。
現在、愛知県ソフトテニス連盟副会長、日本OGソフトテニス連盟副会長などに就く。

1905年(明治38年)に設立された愛知淑徳高等女学校は、昭和24年に最後の卒業生を送り出し、41年間に渡る歴史を閉じました。しかし昭和22年に愛知淑徳中学校、23年に愛知淑徳高等学校が開校され、高女の卒業生が高等学校へ進むこともありました。卒業生に学園での思い出を伺うシリーズの第4回は、この時代にテニスで活躍された鈴木陽子さんに登場していただきました。

高等女学校から高等学校へ、生涯打ち込めるスポーツ、テニスと、生涯の友に出会えた淑徳の6年間。



昭和23年元旦に、「よそいき」の標準服を着た鈴木さん。胸に淑徳のバッジを付けている



高等学校が開校して2年目の卒業証書。第26号と番号が若い

昭和23年、高等女学校5年生の時、福岡で開催された第3回国民体育大会にて、右が鈴木さん、左が現在もベアを組んでいる岡本愛美子さん(旧姓:加納)。中央は庭球部の顧問だった守田俊三先生



昭和24年、高等学校3年生の時、第4回国体(東京)で3位に入賞

